

防災教育の今は…？

～その2～

公益社団法人 **日本河川協会**

平成27年5月

本レポートでは、前報のご報告（平成26年5月「防災教育の今は…？」：日本河川協会のホームページをご覧ください）以降に当協会でご報告した各種情報やアンケートの結果についてご報告いたします。

また、末尾に、防災教育カリキュラム事例や展開例などを入手できるWebサイトのURLを一覧にいたしました。日本河川協会のホームページからダウンロードできるPDF版をご利用いただければ、クリックして該当資料をご覧ください。

中教審の学校安全部会が「学校における安全教育的充実について」を取りまとめています

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo5/gaiyou/1353562.htm

文部科学省中央教育審議会スポーツ・青少年分科会の学校安全部会で審議された内容がとりまとめられ、昨年11月に公表されたものです。

防災教育を含む安全教育的目標は「日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質や能力を育てる」こととされています。すなわち、児童生徒本人の安全確保はもとより、「安全で安心な社会づくりの担い手」となることが期待されているわけです。

このためには、発達の段階に応じた「系統的・体系的な教育」が重要とされ、

「…時間の確保、指導内容のまとまりや系統性、中核となる教科等を位置づけることの効果・影響、教材の在り方、学習評価の在り方、指導体制の在り方などの諸課題について、今後、次期の学習指導要領改訂に向けての審議において、教育課程全体の議論の中で検討する。」

「学習指導要領の総則や解説等において、安全教育的の中核となる教科等と、各教科等の役割と関係性を系統的に示すことを検討すべき。」

「…安全教育的の内容を明確にし、系統性を示すこと等により、指導時間の確保を図る。」

など、今後の方向性が示されています。



今年の2月下旬に文部科学省の方のご講演を拝聴する機会がありました。残念ながら、その後の学習指導要領の検討状況についてはお話しいただけませんでしたが、防災教育的の充実についてのご説明の中で防災カリキュラム事例や展開

例などをお示しいただきました。詳しい参考資料としては「『生きる力』を育む防災教育的の展開」（平成25年3月改訂）をご紹介します。（末尾のURL一覧に加えてあります）

また、私見としてということですが、学校外の組織との連携が絶対に不可欠だとの指摘をなさいました。権限やノウハウを持った外部の専門機関に助けを求め、一緒に対策を考える、といった連携が必要であるということ。日頃からの連携関係の構築ということになると様々な課題があるかもしれないが乗り越える必要があると強調されました。

国土交通省では「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」を取りまとめ、順次具体化が進められています

<http://www.mlit.go.jp/saigai/newstage.html>

有識者からのご意見などを踏まえながら国土交通省が作成し、今年1月に公表されました。

「温暖化の進行により危惧されているような極端な雨の降り方が現実起きており、明らかに雨の降り方が変化している」「いつ大規模噴火が起こってもおかしくない」という状況を「新たなステージ」として捉えています。

すなわち、「最悪の事態」を視野に入れ最大クラスの外力（大雨等）を想定する必要を訴えています。

その場合、今までどおり「比較的発生頻度の高い降雨等」に対しては施設によって防御することを基本とするのですが、一方、それを超えるような降雨等に対しては「施設では守り切れない」という危機感を社会の各主体で共有し、それぞれが備え、協働して災害に立ち向かう、そういう社会を構築していくことが重要であると指摘しています。

中教審の学校安全部会が安全教育的の目標として掲げたものと問題意識が共通しているように思います。

「住民の避難力の向上」という箇所では、

「自然災害に対する「心構え」と「知識」を備えた個人を育成するためには、幼少期からの防災教育的を進めることが効果的であり、これにより子供から家庭、さらには地域へと防災知識等が浸透していくことが期待できる。このため、防災教育的が体系的に実施されるよう学習指導要領の充実を検討している文部科学省への支援方策を検討する必要がある。また、各学校教育現場における取り組みを推進するための年間指導計画や板書計画に関する情報を教育委員会等に提供するなどの支援方策を検討する必要がある。」

と記述されています。

その後、今年2月に入って、国土交通省社会資本整備審議会河川分科会の気候変動に適應した治水対策検討小委員会から「災害リスク情報と危機感を共有し、減災に取り組む社会へ」という副題の中間とりまとめが公表されました。

http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/shaseishin/kasenbunkakai/shouinkai/kikouhendou/index.html

「想定しうる最大規模の外力の設定等」という箇所では、
「これまで比較的発生頻度の高い外力を対象として施設整備やハザードマップの整備等を進めてきたが、今後は、最悪の事態も想定し、想定しうる最大規模の外力が発生しても、できる限り被害を軽減する対策を進める必要がある。」

として数多くの対策が示されていますが、その中の「防災教育や防災知識の普及」という箇所では、「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」のご紹介で引用した記述と同様の指摘がなされています。

なお、4月末現在、条文に「想定最大規模降雨」や「想定し得る最大規模の高潮」という用語を初めて用いた水防法等の改正案が国会で審議されています。

日本河川協会が昨年8月から9月にかけて実施したアンケート調査結果からは各学校の先生方が数多くの課題を抱えておられることが見えてきました

日本河川協会では平成24年度から全国約9600の中学校の先生方に防災教育に関するアンケート調査を実施しています。3回目となる平成26年度の調査では防災教育に関するカリキュラムの作成状況や課題等についてお伺いしました。

回答いただいたのは87校にとどまりましたので定量的な分析はできませんが、多くの先生方が悩んでおられることが良くわかりました。

防災教育カリキュラム策定の予定が無いと回答された先生方の場合には、校内の意識が高まっていない、検討のための時間が取れない、検討方法や検討内容が見通せない、といったコメントが多く見受けられました。

策定中と回答された先生方は、検討する時間の確保、授業時数の確保や各教科との兼ね合い、教材や講師の確保、といった課題を抱えておられます。

すでに策定済みと回答された先生方の場合、問題無く進めておられるとのご回答もいただきましたが、教材等の確保などのほか、校内の意識の低下に悩んでおられるケースもございました。

ご回答いただいたコメントを列記させていただきます。

「防災教育カリキュラム策定の予定は無い」と回答された先生方のコメント

①校内の意識が高まっていない

- ・必要だと考えているが最優先業務になっていない。
- ・2011.3.11の津波による被害、そして今年度の広島の高雨災害等、防災教育の必要性は理解してもらえませんが、カリキュラムの作成までは合意形成はできていない。
- ・1年間あるいは3年間を見通したカリキュラム策定に向けた教員の意識が高まっていない。
- ・必要性は感じているものの、カリキュラム作成までの意欲にはつながっていない現状があり、実践でも避難訓練(年2回)程度にとどまっている。
- ・現状では、作成しなければいけないという雰囲気がない。
- ・現状では、防災教育を取り入れようとする意識も流れもありません。

②検討のための時間、防災教育実施のための時間が取れない

- ・防災教育のための時間確保が難しい。
- ・作成の時間(その他事で忙殺されてます)。
- ・多忙であり、なかなか時間がとれない現状があります。
- ・多忙な学校現場の実情の中で、どうやって指導時間を確保するか。
- ・合意形成をする時間がない。指導が必要な学習内容が多く、防災教育にかける時間が限られてしまう。
- ・日々多忙で、各教科とのすり合わせをする時間がとれない。
- ・授業時数の確保で精一杯な部分がある。

③検討方法や検討内容が見通せない

- ・意識はあり教員間で話題には出るものの、具体的扱いは難しい。
- ・防災教育の大切さは理解しているが、0からのスタートとなり、見通しが持てない。

「策定中である」と回答された先生方のコメント

①検討のための時間確保が難しい

- ・小中連携での取り組みなので、時間も必要なこと。
- ・多くの仕事をかかえ、防災教育だけに特化しづらい。
- ・やらねばならぬことが多すぎて、十分に時間を割くことができない。

②授業時数の確保、各教科との兼ね合い

- ・避難訓練と関係してすすめていきたいが、十分な時間が確保できない。

- ・年間指導計画内への位置づけ。時数の確保。
- ・教科、領域との関係付けを明確にしたい(時数確保)。
- ・授業時数との兼ね合い。
- ・きびしい授業時数のやりくりの中で、「総合的な学習の時間」をみたいのだが、今の教育課程を見直さないと、しっかりとした防災教育カリキュラムが確保できない点。

③教材、講師の確保に苦労している

- ・地域にあった具体的な教材がなかなか手に入らない。
- ・学年毎にどんな教材を扱っていけばよいかの方針が定まらない。
- ・本校とその地域の防災について熟知した講師を選定することが難しい。

④校内の意識は高いという学校もある反面、課題が残る学校もある

- ・3.11以来、とても高まっているので特にない。
- ・沿岸部に位置しているため、校内の意識は高い。
- ・経験や意識に差があるために、なかなか共通理解が図れない部分がある。
- ・防災教育そのものに対する職員の意識の高揚が望まれる。
- ・職員の意識を高める、いい資料があったらいただきたい。

「策定済である」と回答された先生方のコメント

①教材や講師の確保、他のカリキュラムとの調整が課題となっている

- ・防災教育の教材がしっかりそろっていない。
- ・講師が呼びにくい。
- ・他のカリキュラムとの調整。
- ・学校で取り組まなければならない「～教育」が多すぎる。外部からの提言は、学力向上もふくめ、全体バランスを考えたうえで行ってほしい。

②校内の意識が低下している

- ・職員は非常に協力的です。生徒の中にはややマンネリ化による気のゆるみがあります。
- ・意識は高くない印象を受ける。
- ・東日本大震災で防災教育の見直しをはかり計画・実施を行ってきたが、3年の年月を経ると、実質的な被害をあまり受けなかった本校地区では、職員・生徒とも意識の薄れをいなめない。

③課題は特に無い

- ・土地柄、防災に力を入れていますが、期間を定めてきっちりやっているつもりです。

防災教育カリキュラムの事例をご紹介します

今回のアンケートで策定済みの防災教育カリキュラムを公表しても良いとご回答いただいた宮城県石巻市立渡波中学校と福岡県大牟田市立橋中学校の事例をご紹介します。ご参考にしていただければと存じます。

(渡波中学校 学校防災年間計画)

月	防災管理	組織活動	防災教育		
	関連行事		教科	道徳	特別活動その他
4	・安全のきまりの確認(設定) ・安全点検年間計画確認 ・避難経路の確認 ・危機管理体制に関する研修			・やさしさがいっぱい	・危険個所の確認 ・緊急連絡カード及び避難確認カード記入(個人マニュアル)
5	・安全点検 ・安全教育指導者研修				・災害時の安全な避難と備え
6	・安全点検 ・避難訓練(地震・津波) ・地域学校安全委員会	・気持ちよく住む家(家) ・事故やけがの防止(保体)		・花に寄せて ・命を助けたい ・命を見つめて	・地震の危険と避難
7	・安全点検(通学路を含む) ・避難所運営に関する研修会(関係機関との連携)	・自然災害の現状と対策(保体)			・夏休みの過ごし方 ・防災マップづくり
8	・安全点検 ・救急体制の見直し ・防災についての研修会				・地震による津波の危険
9	・安全点検 ・防災に関する研修 ・地域合同防災訓練(地震・津波)				・地域防災の参加とボランティア
10	・安全点検 ・地域学校安全委員会	・地球のすがた(社)		・震災の中で	
11	・安全点検 ・避難訓練(火災) ・防災設備、用具の訓練	・日本のすがたとさまざまな地域(社) ・自然と人間(理)		・奇跡の一週間 ・星の流れ	・社会に生きる一員として ・火災発生時の対応、避難
12	・安全点検 ・避難所として開放する場所の点検				・冬休みの過ごし方 ・避難時の約束について
1	・安全点検(通学路を含む)	・活動する大地(理) ・応急手当(保体) ・天気とその変化(理)			・災害への備えと協力(地域の一員として)
2	・安全点検 ・防災教室 ・地域学校安全委員会	・大地の変化(理)		・住みよい社会 ・あふれる愛	
3	・安全点検 ・学校安全点検の評価と反省	・世界と日本の自然環境(社)			・震災を教訓とした災害への備え ・春休みの過ごし方

(橋中学校 防災教育年間指導計画)

目標	全学年共通	・災害時に周囲の状況を的確に判断し、完全に避難する能力を身につける(避難訓練等)。 ・災害時の応急処置について、その意義と処置法を身に付ける(救命救急法の実習等)。
	1年	・自然災害について知る。 ・地域の状況をとらえ、災害の備えについて考え、防災意識の向上を図る。
	2年	・災害被害への備えについて調べ、地域における防災体制を考える。
	3年	・災害時における学校の果たす役割について理解し、学校と地域の人々とのつながりやボランティア等の活動に積極的に関わろうとする態度を養う。

★毎月初めには、安全点検(校舎内外)を実施

月	関連行事等	各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
4	・通学路の安全確認 ・春の交通安全週間			「避難訓練」の事前と事後指導(全学年)	
5	・「避難訓練」 〔火災・地震・津波〕対応 消防署との連携 初期消火活動 大型消火器の使い方		「心をつなぐバス」(1年) 「妹に」(2年) 「あなたはすこい力で生まれてきた」(3年)	「防犯教室」の事後指導(全学年)	
6	・梅雨時の登下校(増水、冠水時の注意) ・「防犯教室」(講話)不審者対応ほか	〈保健体育〉 「水泳」安全指導(全学年)	「決断! 骨髄バンク移植第1号」(1年) 「心に寄りそう」(2年) 「奇跡の一週間」(2年)		「救命救急法」の実習(3年) ※消防署から講師招聘 「地域体験学習」(全学年)
7		〈保健体育〉 「水泳」安全指導(全学年)	「おおぞら・かがやき資料」(1・2年) 「TAKE OFF」(3年)	夏休みの過ごし方 (水難事故や交通事故防止)	
8	・防災器具の整備点検 (消火器・火災報知器等)				
9	・通学路の安全確認 ・台風時の登下校(増水、冠水、強風時の注意) ・秋の交通安全週間				
10		〈社会〉 「世界と日本の気候」(1年) 「産業と環境保護」(2年)	「流れ星」(3年) 「くちびるに歌を持って」(3年)		「福祉体験施設訪問」(1年)
11	・秋の火災予防週間				
12				冬休みの過ごし方(事故防止)	「環境保全」(1年) 「修学旅行」(2年)
1	・通学路の安全確認 ・積雪時の登下校(道路凍結等の注意)	〈理科〉 「大地の変化」(1年) 「天気とその変化」(2年) 「自然と人間」(3年)			
2	・防災器具の整備点検(消火器・火災報知器等)	〈保健体育〉 「傷害の防止」(2年) 「応急手当」(2年) 〈技術・家庭〉 「地震に耐える住まい方」 「地域と住まい」(2年)	「思いやりの日々」(1年)		
3	・春の火災予防週間		「見沼に降る星」(1年) 「愛」(2年)	春休みの過ごし方(事故防止)	

防災教育を系統的、体系的に進めるために ～ 教育委員会等のWebから ～

防災教育カリキュラムや展開例などについてWebで入手可能な参考事例を整理いたしました。文部科学省のほかは府県市の教育委員会のWebサイトから検索しております。良い事例であるにもかかわらず漏れているものも多いと思います。ご容赦いただきますようお願い申し上げますとともに、当協会にお知らせいただければ幸いです。

No	情報元	資料名等	URL (平成27年4月現在)	学年別学科別 計画例	テーマ別 展開例	教材リスト /教材
1	文部科学省	学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開	http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1289310.htm	*120頁～	*122頁～	*122頁～
2	釜石市教育委員会	釜石市津波防災教育のための手引き	http://www.ce.gunma-u.ac.jp/kamaishi_tool/	*	*	*
3	仙台市教育委員会	新防災教育副読本を活用した指導事例・指導事例/副読本 (PDF版)	http://www2.sendai-c.ed.jp/~center/06siryou/01fukudokuhon/01bousai/disaster.html		*	*
4	秋田県教育委員会	学校における防災教育の手引き	http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1385000927937/index.html	*77頁～	*80頁～	
5	福島県教育委員会	「生き抜く力」を育む 福島県の防災教育	http://www.gimu.fks.ed.jp/shidou/bousai_1/bousai_web_1.pdf	*51頁～	*71頁～	
6	さいたま市教育委員会	学校における防災教育	http://www.city.saitama.jp/006/014/008/006/p020290_d/fil/bousaikyouiku.pdf		*62頁～	
7	神奈川県教育委員会	学校における防災教育指導資料	http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f370060/		*16頁	*21頁～
8	綾瀬市教育委員会	綾瀬市防災教育指導計画	http://www.city.ayase.kanagawa.jp/hp/page000024700/hpg000024657.htm	*		
9	静岡県教育委員会	教職員用学校安全教育指導資料「命を守る力を育てる～学校教育全体で進める安全教育～」/しずおか型実践的防災学習支援教材集	http://www.pref.shizuoka.jp/kyoiku/kk-010/bousai/main.html	*18頁～	*40頁～	*(パスワードが必要)
10	長野県教育委員会	学校における防災教育の手引き	http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/hokenko/hoken/gakkoanzen/bosai-02.html		*	
11	三重県教育委員会	防災ノート	http://www.pref.mie.lg.jp/KYOIKU/HP/bosai/68638018172.htm			*
12	尾鷲市教育委員会	津波防災教育のための手引き	http://dsel.ce.gunma-u.ac.jp/owase_tool/	*	*	*
13	大阪府教育委員会	学校における防災教育の手引き (改訂版) -大阪の子どもたちを災害から守るために-	http://www.pref.osaka.lg.jp/hokentaiku/hoken/bousaitebiki.html	*57頁～	*59頁～	*59頁～
14	兵庫県教育委員会		http://www.hyogo-c.ed.jp/~somu-bo/			*
15	奈良県教育委員会	奈良県学校地震防災教育推進プラン	http://www.pref.nara.jp/kyoikuk/bousai/	*	*	*
16	和歌山県教育委員会	和歌山県防災教育指導の手引き	http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500100/koumoku2/sub10_1.html	*2頁	*34頁～	*34頁～
17	鳥取県教育委員会	鳥取型防災教育の手引き (小学校向けのみ)	http://www.pref.tottori.lg.jp/239259.htm	*	*	*
18	広島県教育委員会	広島県自然災害に関する防災教育の手引き	http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyoiku/bousaitebiki.html		*	
19	山口県教育委員会	防災教育ハンドブック (改訂版)	http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50500/riskmanage/handbookkai.html		*	
20	高知県教育委員会	防災教育全体計画/高知県安全教育プログラム	http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301	*	*	*
21	高知市教育委員会	高知市 地震・津波防災教育の手引き	https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/75/bosai-tebiki.html		*	*
22	長崎県教育委員会	リーフレット「長崎県の防災教育」	https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kanko-kyoiku-bunka/shochuko/jigyouchousa-shochuko/jigyou-anzenansin/	*		

表中の「学年別学科別計画例」の欄に記載された「*」は、防災教育カリキュラムの事例でご参考になるものが含まれていると思われる場合に付けさせていただきます。「テーマ別展開例」「教材リスト/教材」も同様です。欄中の頁数の記載は、PDF版で入手可能な場合に、主として中学校に関係する部分の最初の頁数を記入いたしました。また、まとまった資料の形式になっていない場合には「資料名等」を空欄にしてあります。